

1. 教育方針と重点目標

学校教育目標	(1) 工業を中心とする基礎的、実践的な教育(ものづくりを中心とした体験学習)を通して、工業人としての自覚を持ち、その使命と責任を全うできる実践力のある人間を育成する。 (2) 人間としてお互いの人格を尊重し、明るく、楽しく、いじめや体罰のない、安心・安全な学校づくりを目指す。 (3) 自主活動(生徒会活動・ボランティア活動等)を通じて、自主・自立の精神を鍛え、健康の維持と体力の増進を図る。 (4) 地域との連携を深め、開かれた学校づくりを目指す。
重点目標	長期目標 地域に根ざした工業の専門高校として、地域産業の中核を担える知識と技術と行動力を持つ人材育成に努める。
	中期的目標 (1) 確かな技能を基に、自ら考え開発する姿勢を養う。 (2) 円滑な人間関係が築けるよう、コミュニケーション力を高める。 (3) 信頼される人材として義務と責任を果たす。 (4) 実践的知識・経験を深めるために企業連携、地域連携を発展させる。
今年度の重点目標	(1) 基礎学力の向上とキャリア教育の充実を図る。 (2) 生徒が安心して活躍できる環境を設け、積極性や自己肯定感、達成感を得られる教育活動を展開する。 (3) すべての子どもの学びの保障を推進し、いじめ等のない明るく開かれた学校を目指す。 (4) 体力の向上とスポーツの振興を目指す。
総合評価	地域に根ざした人材育成や探究的な学びを推進し、「HUM-SAT2(てるてる)」等、様々なメディアの取り上げていただいた。すべての生徒の進路希望を叶えるため、基礎学力の向上と進路先に対応した学習指導の改善を今後も引き続き検討する必要がある。

2. 自己評価

(1) 教育活動領域における重点目標と評価

<評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分>

対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
学習指導	学習特活委員会	(1) 学力向上の推進	① 「学習の手引き」「学習計画」の作成と公開	B	教務係や各教科との連携で、「学習の手引き」「学習計画(シラバス)」を作成、年度当初に提示した。より簡潔で、生徒にとって理解・活用しやすい資料の作成に努めた。
			② 基礎学力の確実な習得に向けたPDCAの実施		進路係と協力し実力テストにて「基礎力診断テスト」を実施、学習強化期間を設けて朝の15分間を学習の時間にあてた。また、各教科との連携で事前学習教材の取組促進を図った。引き続き学習時間の確保と基礎学力向上に努めた。
	③ 指導と評価の一体化のための学習評価の実施	資料の形式を改善し、全職員がより多数の生徒の学習実態や評価・評定を共有できるようにした。			
		(2) LHRの計画的実践的な実施の促進	円滑なLHR運営の支援	B	行事への対応や準備も含め、最大限の活用を図った。今後も、学年学級と他の係・委員会が連携、協力しつつ内容を充実させていきたい。
	教育課程委員会	円滑な科目選択のための計画・運営	① 生徒の進路・実態に即した科目選択 ② 生徒がスムーズに科目選択するための情報発信	A	各科目の授業内容等について、説明資料の配布や教科ごとの説明を実施した後に全体説明会を行ったため、丁寧に科目選択を進めることができた。設置科目数など、今後も研究と検討が必要である。
	学科選択委員会	学科選択実施に関する企画	① 学科選択に関わる準備 ② 生徒・保護者への説明	A	生徒・保護者への説明を丁寧に実施し、円滑に進めることができた。第一希望にならない生徒の面談等については十分な時間を確保する必要がある。
生徒指導	生徒指導係	(1) 生徒理解に努め、積極的な生徒指導の推進	① 生徒個別面談・家庭訪問	B	様々な事案に対応することができた。課題として、特性のある生徒への生徒指導の在り方・対応について検討が必要である。
			② 係・学年を中心にした生徒指導		
		(2) 基本的な生活習慣の確立により、社会道徳の育成	① 通学路指導	A	風紀委員会の活動と連携して通学路指導を複数回、実施した。来年度も同様に実施したい。
			② 遅刻・中抜け指導		
	(3) 自主性を育み、意欲的かつ計画的な生活の展開	① 全校集会・学年集会での啓蒙 ② 「生活だより」の発行	B	終業式での講話はその時に起こっている話題を中心に話げできた。係からの通信は予定通り年3回発行した。引き続き発行していく。	
(4) 交通安全指導	① 交通安全講話の実施 ② 自転車・バイク車両点検 ③ バイク安全運転技術講習会の実施 ④ 通学路交通安全指導 ⑤ 自転車用ヘルメット着用の働きかけ	A	スタントマンによる自転車交通安全教室を実施した。交通事故が起きる要因や自転車乗車時の危険性を認識できた。ヘルメット着用調査と自転車点検を年2回実施した。来年度は青切符について警察の方からの講話を予定。夏季は暑さのためヘルメット着用率が下がる傾向があり、それが課題である。バイク許可者には日程を調整し講習会を実施した。		
	いじめ対策委員会	いじめ防止	① いじめに対するアンケートの実施 ② クラス担任との連携	B	いじめを早期発見することや生徒の実態をつかむために生活アンケートを実施した。大きな問題はなかったが、悩み(進路・人間関係など)を抱える生徒がいて、保護者懇談や担任と面談をするなどして対応した。
生徒会活動	生徒会係	(1) 生徒による自治の実現 生徒会行事の計画・立案・準備・運営	① 生徒によるマナーの向上 ② 生徒の自主性を活かした行事の運営の手助け ③ クラブ活動の活性化	A	執行部を中心に、クラスマッチや駒工祭など各生徒会行事の企画・運営に責任をもって主体的に取り組む姿が見られた。特に駒工祭では、クラスやクラブ等で工夫しながら展示・発表等をして、さらに充実したものとなった。
		(2) 美化活動を通じた公共心の育成	① 通常清掃・大掃除・学校作業への取り組み ② 通学路・伊那福岡駅広場の清掃		美化委員・総務委員を中心にゴミの分別を呼びかけた。清掃は意欲的に行い、各場所で校舎内外がきれいに維持された。また、執行部を中心に通学路清掃を月1回程度行い、学校周辺の美化に努めることができた。
進路指導	進路係	(1) 適性の発見に向けた指導	① 進路ノートの作成	A	毎年2年生に進路ノートを配布し、進路指導に役立てている。
			② 講演会・説明会の企画運営		3年生は5月に就職希望者は上伊那産業視察(上伊那の企業)、進学希望者は本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスを実施した。また、志望理由や面接練習の講演会等を行った。2年生は1月に就職希望者は上伊那高校内企業説明会(いなっせ・合同庁舎)、進学希望者は本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスを実施した。2月には就職希望者はTSUNAGU企業勉強会(アイパル)、進学希望者はライセンスアカデミー主催の進学相談会に参加した。進路実現に向けての取組をスタートすることができた。1年生は1月には1年生を対象に進路講演会を企画し、セイコーエプソン(株)の講師の方々に働くことや高校生活の過ごし方などについて講演をしていただいた。2月に本校でライセンスアカデミー主催の進学ガイダンスを実施した。1・2年生向けに公務員講座を行った。
		(2) 自己の確立に向けた指導	① 進路通信の発行	A	進路通信は定期的な発行を計画したが、思うように発行できなかった。いろいろな進路に関わる情報発信をするツールとして活用できるようにしていきたい。
			② 学力向上策の提示と充実		学力向上策の一環として、学習特活委員会と連携し、実力テストへの取組を充実させ、基礎学力の向上を図ることができている。継続していきたい。
			③ 進路情報の提供		GoogleClassroomを利用して、生徒に情報発信を行うことができた。
(3) 進路の実現に向けた指導	④ 就業体験の企画運営	A	就業体験は、2年生73名が65社で体験を行った。多くの企業のご協力により、無事行うことができた。また、南信工科短期大学校に協力いただき、進学希望者への講義及び実験を数日間行うことができた。生徒にとってはとても貴重な機会とすることができた。		
	① 進路情報の集積・充実 ② 面接・論文指導の充実 ③ 学校・会社見学の充実 ④ 関連部署との連携 ⑤ 新規進路先の確保	A	企業調べや見学の参考となるように企業ガイドブックを3年生の就職希望者と2年生全員に配布した。また、進学相談会へ参加し情報誌(推薦・総合型)いただき学校調べに使用している。 就職・進学ともに面接指導や履歴書・小論文などの指導をしっかりと行うことができた。就職支援員の方に面接指導をしていただき、外部の方の意見を聞くことができ、生徒には大いに参考になった。また、試験対策問題集も充実させ、就職・進学の試験に対応できるようにしている。 オープンキャンパスへ積極的に参加するように指導した。また、複数社企業見学を行うことができた 就職については、ハローワークや上伊那職業安定協会などと協力して、企業説明会を開催するなど、連携を図りながら生徒の就職支援を行うことができた。 企業説明会や就業体験に新しい企業にも協力していただいた。新しい県外の企業への就職も内定した。		

校外連携	学年・係・科	地域や企業と連携した諸活動	実践的な知識・経験を深めるための連携活動	A	1学年が駒ヶ根市と連携したうみがめプロジェクトを実施した(12月)。工場見学で工場や事業所の見学を行った(6月)。「よく飛ぶ紙飛行機教室」を赤穂公民館(7月)や伊那中文化祭(9月)で実施した。駒ヶ根ふれあい祭りに参加し、ワークショップを実施した(10月)。地域企業と共同開発した人工衛星でてるてるの打ち上げに成功した(10月)国立高遠青少年自然の家主催の高遠フェスで工作教室と駒工ファイターズのショーを実施した(11月)。駒工ファイターズによるショーを駒ヶ根市内の保育園4園で実施した(12～2月)。全国課題研究発表会を保護者や地域、企業、中学生に公開した(1月)駒ヶ根市・国土交通省天竜川管理事務所主催の防災フェスに参加し、ドラム缶リサイクルの機器を紹介した(2月)。
	渉外係	PTA活動を通じた学校と家庭との連携	① 学年・学級PTAの重視と充実	A	3学年は実施。1、2年は度末までに実施予定。
			② PTA会報の発行、メール配信システムの有効活用		PTA開放は3回発行し、PTA活動、生徒の様子などを広く丁寧に伝えることができた。
			③ スポーツ交流会実施に向けた活動支援		役員の方々の連携がスムーズで、保護者、職員、生徒も参加し、良い交流の場となった。
			④ 駒工祭への展示出店に向けた活動支援		能登半島復興支援販売において、事前準備から実施まで、役員の方々が主体性をもって取り組み、昨年を上回る貢献活動となった。
⑤ 保護者研修会の実施に向けた活動支援			植松電機の植松努社長による人権平和講演が行われ、聴講した生徒、保護者、職員にとって有意義な講演となった。		
学校評議員運営委員会	地域に根差し開かれた学校づくり	学校評議員会開催と、意見要望の反映	A	年2回の評議員会を計画し実施できた。	
教務係 広報学検		授業公開の計画と実施		5月と9月に授業公開を行ったほか、中学PTA向け授業見学1回、中学生個別見学4回を実施した。	
その他	図書 視聴覚 人権平和係	(1) 図書館利用の促進	① 広報活動、コーナーの設置による読書の動機づけ ② 利用者のリクエスト・要望への対応	B	図書館だよりやテーマごとに本を展示したコーナーの設置により、貸し出しにつなげることができた。利用者のリクエストには可能な範囲で応えることができた。
		(2) 芸術鑑賞を通じた豊かな情緒の涵養	円滑な実施に向けた計画と合同鑑賞校との調整		
		(3) 人権感覚を持ち平和を希求する生徒の育成	① 全校生徒対象の人権・平和教育を企画及び実施 ② 教科、学年、HRにおける人権平和教育の実施	A	株式会社植松電機 代表取締役 植松努氏による講演をPTA共催で行えた。
	教務係	ICTの積極的な活用	① ICT機器の整備・管理と有効活用の検討・実施 ② 一人一台端末活用のための環境整備		A
	特別 支援教育係	(1) 生徒の心のケアのための支援	① 学年会・担任・各係との連携 ② スクールカウンセラー、家庭、関係諸団体との連携 ③ 生徒の変化に気づき、チームでの情報共有、必要な支援の実施	A	該当の学年や担任の先生、保護者と連絡を取り合い、カウンセリングの計画や内容のフィードバックを行うことができた。生徒の状況に応じて、SSTやSSWとも連携し、継続的な支援を行うことができた。
		(2) 特別支援に関する情報の提供と研修	① 支援を必要とする生徒についての全職員による情報共有 ② 様々な会で提供される情報や資料を共有することによる、理解の深化。		B
	保健美化係	(1) 保健教育	① 科目保健における学習 ② 保健委員会と連携した保健だよりの発行 ③ 性教育・薬物乱用防止教育の外部講師の活用	A	保健体育「保健」授業(1・2年)での保健教育の実施 保健指導の「ほけんだより」を印刷とGoogle classroomでの配信の両方を活用できた。 1年生への「性教育講和」を助産師、2年生への「薬物乱用防止教育講和」を警察署に依頼し、講演会を実施した。
		(2) ゴミの分別についての理解促進	① 毎日の清掃時にゴミ収集場所において確認 ② 資源物分別の徹底		A

(2) 学校運営領域における重点目標と評価

<評価 A:達成 B:概ね良い C:不十分>

対象	担当部署	今年度の重点目標	評価の観点	評価	成果と課題
生徒募集	広報・学検係	(1) 教育内容や魅力などを伝える広報活動	① 中学生及びその保護者への情報発信 ② 中学と連携した広報活動 ③ 広報資料の作成と整備 ④ ホームページによる適切な情報公開	A	年度当初計画した広報活動(駒工通信の定期的発行、中学校訪問、体験入学、パンフレット作成と配布、ホームページに各種行事の案内や様子をあげるなど)予定通り実施できた
		(2) 入学者選抜業務の円滑かつ厳正な運営	新たな入学者選抜制度への対応と選抜業務全般の円滑かつ厳正な企画及び運営	A	web出願初年度であったが、おおむね対応できた。課題が出された場合は、県への要望を含めた対応をしたい
将来検討	高校再編準備係	高校再編に向けた将来構想の検討準備	① 上伊那総合技術高校再編実施計画事務局会議との連携 ② 上伊那総合技術高校再編実施計画懇話会の対応 ③ 再編に関する校内意見のとりまとめ	A	・事務局会10回、懇話会2回、高校視察3回に加えてプロポーザルに参加し再編について意見交換を行った。 ・校内係会を27回行い、意見交換を行った。 ・再編だよりを発行し、再編について周知を図ることができた。
安全管理	防災係	(1) 防災計画の策定	① 防災計画の見直しと、防災訓練の実施 ② 災害時帰宅困難となった生徒のための食料備蓄	A	・現状に合わせた防災計画書の見直しをおこなった。 ・合宿所の火事で焼失してしまった生徒防災備蓄品を再度調達することができた。
		(2) 安全管理	全職員による危機管理マニュアルの確認	A	・危機管理マニュアルを確認した。
健康管理	保健美化係	(1) 心と体の健康管理	① 健康診断の実施と事後指導 ② 健康相談(学校医、他外部機関との連携) ③ 感染症及びその他の疾病予防	B	・定期健康診断の実施とその事後措置を計画的に行うことができた ・健康診断結果を踏まえ、学校医等と連携できた。 ・インフルエンザ・コロナ感染対策等の疾病予防に努めた
		(2) 保健環境管理	学校環境の把握と整備		
	学校衛生委員会	(1) 職員健康診断受診について	人間ドック・定期健康診断受診の呼びかけ	B	予約は対象者全員100%。100%実施を目指す
		(2) 職員の職場環境の把握	① 調査実施 ② 調査結果の評価	B	学校安全衛生委員会による点検を夏季と冬季に実施し危険個所の点検や、修繕につなげた。
		(3) 職員健康管理・疾病予防	疾病予防、健康の保持増進についての支援	B	ドック受診勧奨ができた。
研修	各係・委員会	教員研修の充実	校外内の教員研修への積極的な参加	A	特別支援や保健に係る研修を計画的に実施したほか、必要に応じて職員会で研修の時間を設けた。工業高等学校長協会主催の夏季講習や、工業系高校教員スキルアップ講座に延べ5名が参加した。